

企業セクターが培ったノウハウを 非営利団体につなぐ／トヨタ財団

1974年から幅広い分野で活動する団体に助成支援をしてきたトヨタ財団が2016年5月、非営利団体のマネジメント能力向上のためのプログラム「トヨタNPOカレッジ『カイケツ』」を開講した。トヨタ自動車が蓄積してきた組織マネジメントのためのノウハウを提供することで、資金提供以外で社会課題の解決に貢献でき、協働を生み出せるのはいか、その想いから立ち上げた連続講座だ。



トヨタ自動車の業務品質改善部OB/現役社員が講師を務めた。

本当の原因は何か とことん突き詰める

社会課題解決の担い手である非営利団体。その活動への賛同者を増やすためにも、成果を可視化しさらに拡げていこうという動きが始まっている。「違うセクターと連携したプロジェクトを実施することがあれば培われてきたであろうプロジェクトマネジメント力や説明能力がまだ弱いのではないか」とトヨタ財団プログラムオフィサー国内助成グループの喜田亮子リーダーは話す。社会課題を解決したいという想いを共通言語として対話してきたセクターの課題かもしれない。そこでPDCAを細かく繰り返しながら課題を分析することと誰にでもわかるように簡潔にまとめることがポイントであるトヨタ自動車の問題解決手法を非営利団体に提供するためのプログラムをつくった。

2016年3月に参加受付を開始すると、組織マネジメントに課題があ

りと認識していた団体から55件近い申込があった。選考された30名が応募時に提出された課題に沿って6つのグループに分かれ、各グループ1名の講師と議論しながら、最終的にA3用紙一枚のレポートにまとめる。当初、5回の講座でテーマ選定、現状把握、目標設定、要因解析、対策立案というステップを等分に取り扱う予定だった。しかし、実際に始めてみると現状把握や要因を解析するステップで当初のテーマ設定が真因とずれていることに気づき、テーマ選定に戻る団体もあったという。「大きな課題認識に対してやりたいこと、できることを考え、そこから対策を考えてしまっていたのではないかと喜田氏。「課題の分析が十分ではないと真の原因にたどりつけないのです。課題に対して『なぜか』を繰り返すといかていくことで効果のある対策が見つかります」。

「カイケツ」手法を 業務改善から事業運営へ

非営利団体が取り組んでいる課題は社会のひずみから生じていることも多く、評価や指標化に違和感を持つ団体もあるだろう。しかし数値化することが目的ではなく自身の活動を振り返り、広げ、次に結び付けていくためにマネジメント能力を高めていくことで、より効果的な活動に発展するのではないだろうか。喜田氏は初年度の講座を振り返り、「今後、トヨタ自動車の若手社員がこのプログラムにプロボノとして参加するようになり、刺激になっていけたらいい」と話した。

一年間の講座が終了した後も事業運営に活用し、非営利団体の体力が増すことに期待したい。トヨタNPOカレッジ「カイケツ」は2017年も5月より開講する予定だ。

【聞き手：つな環編集部】